

TP

Tom's Press
|トムズプレス|



特集

富山大学 学びの先で — 卒業生 × 教員対談 —

薬学部 OG 李朝香さん (テイカ製薬) × 今中常雄 教授

経済学部 OB 扇谷武志さん (富山第一銀行) × 福井修 教授

芸術文化学部 OG はっとりさちえさん (画家) × 高島圭史 准教授

キャンパス紹介



実験は9割方うまくいかないもの。それを積み上げて初めてうまくいくんです。



「わからない」を追究するそれが、サイエンスの魅力

今中 新しい環境での研究活動はどうですか？ 研究室にいた頃は控えめなところもあったし、慣れない環境でプレッシャーもあったらどう思いますか？

李 おっしゃる通りです。学生の頃、周りは優秀な方ばかりで、なかなか自分に自信がもてなかったんです。でも、社会に出てせっかくチャンスに恵まれたのだから、認めてもらえるようにできる限り頑張ろうと心がけています。

今中 研究者としての自信もついてきたんでしょうね。

李 少しずつですが、プレッシャーに押し潰されそうになったり、研究が思うように進まない時には、いつも先生にいただいた言葉を思い出しているんです。「研究には波がある。たとえうまくいかなかったとしても根気よく続けていけば、波はある時にふとやって来る。その波をつかまえてがむしろに頑張れば必ず結果が出るよ」と。

今中 覚えてないなあ(笑)。でも、実験

李 ありがとうございます。また、いい言葉をいただきました。肝に命じておきます。



今やっている事を着実に。(今中)

はい。肝に命じます。(李)

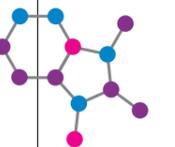
社会の様々な分野で活躍している卒業生たち。富山大学での学びや経験を活かし、どのように成長していったのか。恩師である先生と語り合っていました。

富山大学 学びの先で

【卒業生 × 教員 対談】
薬学部



大学院医学薬学研究部
今中 常雄 教授 × **李 朝香** さん(2013年3月修了)



今も忘れられない授業は「仕事セミナー」

今中 久しぶりの研究室、懐かしいでしょうか？

李 細胞を採取して培養して解析して...という日々を昨日のこのように思い出します。

今中 研究対象は重篤な難治性疾患である副腎白質ジストロフィーなどのベルオキシノーム病ですが、李さんはとても誠実に根気よく研究に取り組む学生でした。細胞の採取や培養は再現性が大事で、何度やっても同じように採取できないと研究できません。重要な作業ですが、とても面倒くさい(笑)。それもきちんとこなしてくれました。私が見ても、かなりできる人です。一昨年の10月からテイカ製薬の共同研究員として日本医科大学に派遣されることになったのも、高い評価があったからこそだと思います。

李 実を言いますと、日本医科大学への派遣は研究者として成長できるチャンスだと思って、自ら手を挙げたんです。

今中 そうだったの!? 意外だったなあ！

李 手を挙げたからには、きっちり成果を出したいと思っています。まだまだ未熟ですが、先生から教わった論理的なものの考え方や発表の仕方などは、今もかなり役に立っています。それと毎週金曜日の「仕事セミナー」のこともよく覚えていてます。自分が取り組んでいる実験について資料をまとめ、みんなの前でプレゼンテーションするのですが、「その実験は意味がない」とか「こうした方がいい」といった議論も交わっていました。

今中 そうそう。自分の考えを正しく相手に伝え、相手の考えも理解する。研究を通してコミュニケーション力を身につけることが大事なんです。それと英語力。この二つの能力を身につければ、国内外どんな仕事に就いてもやっていけます。

李 論文も発表もすべて英語ですから、まさに実践的なトレーニングだったと思います。

今中 それとね、資料は時系列で保存することです。これは私の30年前の実験資料ですが、この時どいつ試薬を作っていたか、組織や細胞をどうやって採取したか、パツとわかります。サイエンスはこれがすごく大事。記録を残しておけば、見たらすぐに再現できるわけです。

李 私も共同研究員としての派遣が決まった時、大学生の時に書いた実験ノートを先生からお借りして、生化学実験に関して勉強し直しました。ありがとうございます。



大学への派遣は成長できるチャンス。自ら手を挙げました。

● 東洋と西洋の知の融合

「薬部・富山」の教育研究拠点である富山大学では、日本唯一の伝統医薬学の研究所である和漢医薬学総合研究所を有し、東西医薬学の融合をテーマとした教育研究を行っています。



「和漢医薬学入門」

医学部、薬学部の学生が漢方診断や生薬・和漢薬などの基礎的な知識を学ぶ授業



和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館
世界の諸民族の伝統薬物や生薬標本約28,000点を保有する



「医療学入門」

医学部、薬学部の学生の混成グループによる講義と実習を通じ、医療人としての倫理観とコミュニケーション能力の体得を目指す必修授業



医学部、薬学部の学生が共に学ぶ緑豊かな杉谷キャンパス

● 医と薬の融合

富山大学では、医学部(医学科、看護学科)と薬学部(薬学科、創薬科学科)、附属病院、和漢医薬学総合研究所が一つのキャンパスに集まるメリットを生かし、相互の連携による特色ある教育を行っています。



法律は世の中を動かす
ベースのようなもの。
人生に大きく関わっています。

大切なのは「今」の仕事に 全力を尽くすこと

福井 富山大学を志望した動機は？ やはり銀行員を目指していたのですか？
扇谷 実を言うと、高校卒業後は「T関係の専門学校に行くつもりだったのですが、進路指導の先生に「富山大学の夜間主コースはどうか」と薦められました。「経済学部は経済、経営、法律を総合して有機的に学べるので、4年後の就職の幅も広がるから頑張ってみなさい」と。正直なところ、就職のことも深く考えていなかったのですが、あのアドバイスがなかったら、今の自分になかったかもしれません。
福井 進路指導の先生に感謝だね。特に、法律は世の中を動かすベースのようなもの。人生の中に大きく関わっていますよ。学ぶ価値は大きかったと思いますよ。
扇谷 はい。福井先生にも感謝しているんですよ。漠然としていた将来像が銀行員と

福井 入行して5年ですか。どう？ 仕事の方は。
扇谷 今は砺波支店で渉外係を担当しています。個人と法人のお客様の所へ訪問し、預金や融資等銀行取引全般についてお話をしていますが、まだまだわからないことも多く日々勉強中です。
福井 「金融取引法」の講義は、現場で役立つていますか？
扇谷 はい。銀行業務には様々な法律が関わっていることを日々実感しています。法律に大きく関係してくる案件は上司の判断を仰ぐことになりませんが、例えば、小切手や手形をお預かりする際、まれに振出日が空欄になっていると、「講義で習ったな」と思い出したりします。
福井 世の中の流れとして個人保証に対する考え方が変わりましたね。銀行で借入する際の経営者保証のガイドラインが一昨年から適用開始になりました。以前は中小企業経営者に個人保証を求めるのは鉄則でしたが、もっと柔軟に考えようというのが最近の考え方ですね。
扇谷 入行した頃にはなかった動きですね。法人と個人が明確に分離されている場合などに経営者の個人保証を求めないこと等で、経営者保証の弊害を解消し、思い切った事業展開や早期事業再生を応援するという形に変わってきています。ABL（在庫や売掛金を担保にした融資）など、保証人に頼



はい！（扇谷）

頑張ってください。期待していますよ。（福井）

して働きたいという明確なビジョンになったのは、先生のゼミのおかげです。
福井 働きながら学ぶというのは大変だったでしょうけど、卒業時には成績優秀者として学長表彰されて、私もうれしかったです。
扇谷 今思えば、人生で一番勉強した4年間でした。夜間主コースには社会人学生も多く、自分から見ると学ぶ姿勢が全然違って、本当に刺激になりました。
福井 よく頑張りました。就職もいくつか内定もらったのかな？
扇谷 5月頭に第一銀行で内定をもらって決めました。早い人は4月頭から内定が出ていたので、焦っていたことを覚えていますが、ただ、先生に報告に行った時は、意外に素っ気なかったような記憶が...。
福井 受かって当然！と思ってたからね（笑）。あれから5年経ちましたが、今後はどんな銀行員を目指していますか？
扇谷 やはり、お客様に信頼される銀行員です。何か力になって欲しいと思った時に、「まず扇谷に相談してみよう」と言っていただけのお客様を一人でも多く増やしていくことが、今の目標です。
福井 こうして話をしている印象が成長している印象を受けました。今、私から扇谷さんにエールを送るとしたら、今現在やっている仕事にどんな課題があつて、どう対峙したらいいかを一生懸命考えて、全力を尽くしてはつとむんですよ。

働きながら学んだ
学生時代。
本当に刺激になりました。

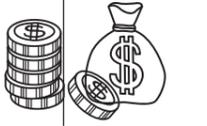


富山大学 学びの先で

【卒業生×教員 対談】

経済学部

経済学部 経営法学科
福井修 教授
富山第一銀行 砺波支店勤務
扇谷武志さん（2011年3月卒業）



法的な知識や思考力は 銀行の仕事に不可欠

らな融資も出てきているので、これらの対応も必要になってきています。
福井 銀行の仕事には、常に対応力が求められる知識や思考力。これを理解しているかどうかで仕事は全然変わってきます。経済学部は、1年生の時に経済、経営、法律について基礎をしっかりと学び、その上で専門科目に取り組みという特色があります。扇谷さんも基礎がしっかりとできていますので、顧客目線でのアレンジや変更にも充分に対応できると思いますよ。
扇谷 先生の講義は、銀行業務を切り口にした視点で法律の問題を扱うという実践的なものでした。銀行員としての長いキャリアをお持ちだからでしょうね、講義がすごく面白かったです。
福井 扇谷さんはとても前向きな学生でした。今でも当時の顔が浮かびます。
扇谷 うれしいです。そんな風に見てもらっていたなんて！



講義で学んだ事が
現在の仕事でも
役立っています。

経済・経営・法律を総合的に学ぶ



経済学部には、経済学科・経営学科・経営法学科の3学科があり、共通の基礎科目や「1」入制により、経済・経営・法律の相互の関わりを総合的に学ぶことができます。

就職ガイダンス

富山大学就職キャリア支援センターでは、学生の多様なニーズに合わせ、就職に関する様々なガイダンスやセミナーを企画開催しています。



就職ガイダンスの様子



就職・キャリア支援センター
五福キャンパス 学生会館2階





芸術文化学部に入ると
絵の好きな人は
もっともっと好きになります

様々なアプローチで 芸術を自由に学べる環境

高島 ところではっとりさんは鹿児島出身ですが、どうして富山大学に？
はっとり 端的に言つと、出来たてはやはやの学部だったので。自由に学べるイメージというか、歴史の長い大学だと、ものづくりのスタイルも決まってるような気がしたんです。それと、水彩画以外に建築やデ

ろんな先生に指導してもらってました。
高島 指導といえば、はっとりさんには、今年の5月にOGとして「造形芸術演習2」での講義をお願いしました。すごくきれいなスライドでね、プレゼンテーションも素晴らしいかったー学生たちも「自分の思いを自分の作品と言葉で表現する」という言葉が印象に残った、「活躍している先輩の話だから勉強になった」と喜んでいましたよ。
はっとり まさか自分が教える立場になるとは（笑）。でも、卒業後の作品制作や展覧会について、先生とフランクに対談する授業だったのでとても楽しかったです。

ザインに興味があったので、「いろんなジャンルが学べます」という謳い文句にも心引かれました。
高島 そう。芸術文化学部はとても自由です。絵の好きな人はもっと好きになるし、絵を描くことには価値があるということを見ることができる学部だと思います。
はっとり 絵だけじゃなく、自分の中に何かしら種のようなものがある…と、ちよつとも思ってる高校生がいたら入学したらいいと思います。種を育てるのは自力だけど、高島先生のような先生たちがたくさんいらつしやるから、心強いです。
高島 いろんなことが出来るよね。絵が好きで入学したけど、立体、デザイン、工芸、美術史など、芸術にはいろんなジャンルがあるってことを改めて知ると、さらに深く絵が好きになると思う。
はっとり それはありますね。私が面白かったのは工芸！ 漆とか金属とか、芸術文化学部に入らなかつたら絶対に縁がなかったジャンルです。指先に怪我を負いながらも、一心に小刀を美しく研いでいく作業には、普段のものづくりとは異なる「生」を感じました。やっぱり絵を描くのと違うアプローチを通して得られるものはたくさんあるよってこと、もっと知ってほしいなと思います。
高島 授業の時も思いましたが、先輩のそういう言葉つてすごく心に刺さるんですよ。はっとりさんにはこれからも富山大学の後輩を導く役割を担ってほしいなと思います。今、絵本の制作も手がけているそうですが、これからの活動はどんな感じですか？
はっとり 30歳までに絵本を1冊出版するというのが目標があります。それと最近、海外の方からも反応をもらっているので、私の絵を見てもらえる機会がつけられたらと思っています。



※2 富山市のショップ「D&DEPARTMENT TOYAMA」には、はっとりさんが制作した壁画がある。12mの壁に約3か月かけて描いた大作。

高島 それは楽しみですね。昔は学生として接していましたが、今はプロとして芸術文化を担う仲間として、ずっとはっとりさんを応援していきますよ！



「展覧」
「まずは地元の人に知ってほしい」との思いから、年に1〜2回、出身地・鹿児島で行っていました。今春、富山で初の展覧「私たちの馴れ初め話」を開催しました。
<http://hatorisachie.blogspot.jp/>



ここからは自由

「作品」
自分の思いを作品と言葉で表現するというのがはっとりさん。タイトルにもこだわりが感じられ、作品との相乗効果で、はっとりワールドが広がります。

「はっとりさちえさんの活動」
絵本を制作しているほか、雑誌や広告のイラストレーションも手がけているはっとりさん。D&DEPARTMENT TOYAMAの壁画は閉店後に少しずつ描いていたため、来店客から「来るたびに絵が増えている」と話題になりました。

富山大学 学びの先で

【卒業生×教員 対談】

芸術文化学部



芸術文化学部
高島 圭史 准教授 × はっとりさちえさん (2011年3月卒業) 画家

この発想をどう表現するか 卒業制作はチャレンジの連続

高島 はっとりさんといえば、一番思い出に残っているのは卒業制作*1です。「2m×1mの大きな紙2枚を天然の染料で黄金色に染めたい。そこに子どもたちを描きたいんです」って相談しに来たんだよね。布じゃなくて紙を、しかも均等に染めるって発想はなかなか出ないです。技術的にも難しいし。
はっとり 一度大失敗して、悲惨な事態になって、でも結果的にはうまくいきました。もう、先生様です。

高島 本当にこだわる人だなと思ったし、面白いビジョンを持ってると感じました。卒業制作の経験は、D&DEPARTMENT TOYAMAに描いた壁画*2にもちゃんと活かされてると思いますよ。いい画家になったね。
はっとり そうですか？ 先生には本当にお世話になりました。学生の頃は、自分の中に世界観のようなものがあっても、表現に力や広がりを感じていました。



*1 卒業制作「やわらかな明日へ」
「黄金色」にこだわり、植物染料で染色。試行錯誤を重ねて選んだフランス製の紙は、今も愛用しているそう。

一人で何とかしなきゃと、もがいてた感じがします。それが、高島先生の絵に対する姿勢、ものづくりへの思いに純粋に尊敬の念を抱くようになって、しょっちゅう研究室におじゃましてました。「こんなことで困ってる」という話をしたら、雲の上から一度降りてきて、同じようにものを見て考えて、ちよつとだけヒントをくださる。それが新しい材料や描き方の発見につながって、どんどん自信が引き出されていく感じ。「引き出し職人」なんですよ、先生は（笑）。
高島 今すごい誉めてくれたけど、かつては私自身も恩師から、ちよつとした言葉をもらって自分でアクションを起こすところがあったので、教員としてそういうスタンスを心がけています。技術的なことは教えられるけど、「何か持つてるけど出せない」時には、どんな技術でどんな色でどんなモチーフで実現化できるかを一緒に考えたいという思いでいます。
はっとり それ芸術文化学部のいいところだと思っんです。私だけじゃなく、みんなが専攻に関係なく、高島先生を含め、い



地域との連携

芸術文化学部では、地域と協力し、実践的な取り組みを行う様々なプロジェクト授業を実施しています。



「LIVING ART in OHYAMA」
富山市大山を舞台に、自然との「共生」、人との「交流」、芸術文化の「創造」を体験するイベント



「金屋町楽市inさまのこ」
江戸時代以来の町並みと、銅器工芸の職を残す高岡市金屋町全域で繰り広げられる、工芸×生活×産業が同居する「ゾーンミュージアム」



医薬学の未来を担う 杉谷 CAMPUS

福利厚生棟
学生食堂や購買部があります。

附属病院
杉谷キャンパスの学生は附属病院で実務実習などを行います。



医薬学図書館
医薬学に関する文献、資料を中心に約22万冊を所蔵。

1年中
24時間
利用可能!

弓道場にいると
気持ちが落ち着きます。

李さん **オススメ!**



弓道場
弓道の本格的な練習・競技施設。



芸術文化の発信地 高岡 CAMPUS

はっとりさん **オススメ!**



芸術文化図書館
芸術系の図書、図鑑等を中心に7万冊以上を所蔵。



エントランスホール
通称「つままホール」。学生たちが制作した作品を展示・発表するスペースとしても活用されます。

学内は
学生作品で
いっぱい!

資料を調べたり
ラフスケッチを
描いていました。



コミュニケーションセンター
芸術文化学部ならではのお洒落なアート空間。学生や教職員の交流の場です。



中庭
大きな「つまま」の木（タブノキ）が植えられた、学生の憩いのスポット。

卒業生も
オススメ!

キャンパス紹介

高岡キャンパス
芸術文化学部

杉谷キャンパス
医学部
薬学部

五福キャンパス
人文学部
人間発達科学部
経済学部
理学部
工学部



学生会館

館内にはコンビニ（TURIP）があり、お昼時にはラウンジに多くの学生が集まります。



生協食堂

好きなメニューを自由選べるカフェテリア方式の食堂。バランスの良い食事を手ごろな価格で。



中央図書館

館内にはアクティブラーニングゾーンが設けられ、グループ学習等にも使用できる。

蔵書は
約100万冊!

広がる学識の世界 五福 CAMPUS

資料室や図書館で
よく調べ物を
していました。

扇谷さん **オススメ!**



経済学部資料室

経済学部関係の文献や資料、雑誌等が所蔵されています。



医学部 薬学部

高校生が聴講できる学部の授業公開

杉谷（医薬系）キャンパスでは、大学レベルの教育に触れる機会を広く提供するため、学部生を対象とした通常授業の一部を、県内外の高校生や教職員の方に公開しています。大学の特色を理解してもらおうと同時に、実際に「大学の授業とはどのようなものか」聴講してもらい、進路選択等に役立てていただければと思っております。聴講ができる授業科目や申込み方法については、下記ウェブサイトをご確認ください。



杉谷（医薬系）
キャンパス入試情報

<http://www.sugitani.u-toyama.ac.jp/nyuushi/sub1.html>

医学部 薬学部

新入生対象の心肺蘇生講習を開催

杉谷（医薬系）キャンパスでは、5月17日、医学部と薬学部の全新入生約300名を対象に心肺蘇生講習を開催しました。この講習は、医療人の卵としての自覚を促し、いざという時に対応できるように必修科目「医療学入門」の一環として行われ、学生らは2015年に更新された国際的な心肺蘇生法のガイドラインの講義を受けたあと、学部・学科を超えた11～12名のグループに分かれ、人形を使って胸骨圧迫や気道の確保、自動体外式除細動器（AED）の使い方などを学びました。



人間発達科学部

イタイタイ病の教訓 インドネシアの教科書で紹介

人間発達科学部の根岸秀行教授（近現代経済史）が携った「環境」の教科書が、今年9月からインドネシアの南タンゲラン市の小学4年生向け授業で使用されます。この教科書は、現地の環境問題への関心の高まりに応え、富山市のインドネシア教育振興会（窪木靖信代表、富山大学OB）とJICA（国際協力機構）の共同支援によって作られ、富山市神通川流域で発生したカドミウム汚染による公害病「イタイタイ病」についての記述が盛り込まれています。10月には根岸教授が現地で教員への指導も行います。



人文学部

「こども環境学会2016年大会（富山）」開催

現代の子供を取り巻く課題と解決策を考える「こども環境学会2016年大会（富山）」が、4月23日、24日に五福キャンパスで開催されました。同大会は人文学部の大西宏治准教授（人文地理学）が大会実行委員長を務め、「こどもと地域力」をテーマに全国から学生や研究者ら約280名が参加しました。大会では本学の神川康子理事（教育担当）・副学長による基調講演や、子供達がけん玉や鬼ごっこを体験するワークショップも行われました。



シンポジウム「変わりゆく地球とともに生きる」を開催

富山大学では、G7富山環境大臣会合開催に合わせ、5月14日に黒田講堂ホールにおいて「G7富山環境大臣会合に向けて～Environmental Research Symposium in Toyama - Living with the Changing Earth - 変わりゆく地球とともに生きる」を開催しました。このシンポジウムは、大学生、高校生や一般市民を対象とし、環境大臣会合に向け機運を高めるとともに、環境に関する高い意識を醸成する目的で実施されました。学内の研究者による環境に関する研究発表やゲストによる講演が行われ、大学生、高校生、一般市民、企業関係者など約250名の参加がありました。



附属図書館

「富山ビギナー講座2016」を開催

中央図書館では、4月13日に「富山ビギナー講座2016」を開催しました。この講座は、新入生の約7割を占める県外出身者に富山での生活をより充実したものにしてもらうと、富山県立図書館との共催で2年前から開催しています。講座では、県立図書館の竹内洋介主任司書が、事前に実施したアンケートをもとに、「富山で驚いたこと」や「県民に聞いてみたいこと」をランキング形式で紹介し、参加した学生や教職員約50名が興味深げに耳を傾けました。



理学部

氷見市で学生らがイタセンパラの生息数調査

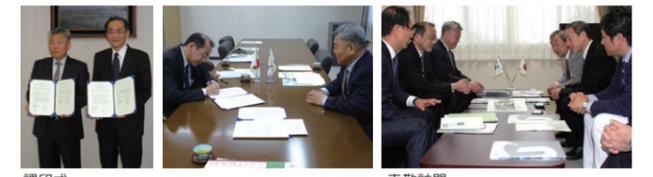
理学部生物学科の山崎裕治准教授と学生らが、氷見市教育委員会と連携し、国の天然記念物で絶滅危惧種の淡水魚・イタセンパラの稚魚の生息数調査を行いました。調査を行った保護池では多くの稚魚が見つかり、昨年10月に市民らの協力で放流した約300匹の成魚が繁殖に成功したことが確認されました。理学部・氷見市連携研究室（ひみらぼ）では、イタセンパラの保護活動を継続して行っており、シンポジウム等を通して、地域住民との連携にも力を入れています。



経済学部

京畿大学（韓国）経商学部・社会科学学部と部局間学術交流協定を締結

経済学部は、韓国・京畿大学の経商学部並びに社会科学学部と、共同研究や教職員、学生の交流を目的とした、部局間学術交流協定を締結しました。4月22日、李在範 京畿大学副学長の立会いの下、本学五福キャンパスにて協定の調印式が行われました。また、調印式に合わせ、李副学長が本学の畑中保丸理事（国際担当）・副学長を表敬訪問し、京畿大学の特徴や今後の学生交流予定などについて懇談しました。



調印式 表敬訪問

EVENT **富山大学 オープンキャンパス 2016**

工学部

8/5・6

受付 8/5 午前の部 9:00～ 午後の部 12:30～
8/6 午前の部 10:00～ 午後の部 12:30～

人文学部、人間発達科学部、
経済学部、理学部

8/9

受付 午前の部 9:00～ 午後の部 13:00～

医学部医学科

8/8

受付 12:00～

医学部看護学科

8/9

受付 12:00～

薬学部

7/17

詳細は薬学部ウェブサイトをご覧ください。

芸術文化学部

8/6

受付 9:20～

問合せ 富山大学 学務部入試課
TEL 076-445-6100

富山大学ウェブサイト
<http://www.u-toyama.ac.jp/>

芸術文化学部

「とやまの木の公園」に芸術文化学部が参加

3月26日に富山市総曲輪のグランドプラザで開催されたイベント「とやまの木の公園」に芸術文化学部生らが参加しました。同イベントは木に触れ、木で遊び、木を知ってもらう「木育」をテーマに、子供達に富山県産材の遊具を提供するもので、芸術文化学部の学生らで作る「木の遊具開発プロジェクト」（代表：芸術文化学部 渡邊雅志准教授）が開発した新しい遊具や、授業「デザイン工芸入門B」で学生らが制作した木のおもちゃが多数展示され、訪れた子供達を楽しませました。



工学部

小学校でバイオ燃料作りの出前授業

工学部生命工学科の星野一宏准教授が、富山市・水橋地域の小学校で6年生を対象に、環境に優しいバイオ燃料を作る出前授業を行いました。この取り組みは5年前から毎年、水橋地域の小学校5校で行っているもので、児童らは、給食室から出た廃油を使って、7月23日に白岩川で開かれる水橋橋まつりの「火流し」に使う燃料を手作りしました。



「温かい関係が成立する授業」とは？ 教師の同僚性を高める学校づくりを

「温かい関係」が成立している授業とは？
その温かさの実態を追い求めている増田講師。
研究分野は、教育哲学・授業研究。客観的なデータとして表れにくい「温かさ」をどうとらえるかが課題だ。「他者の声にじっと耳を傾け合うような温かい授業を行う先生は、確かにいます。そして、多くの教師がそんな授業をしたいと思っ

「温かい関係」が成立している授業とは？
その温かさの実態を追い求めている増田講師。
研究分野は、教育哲学・授業研究。客観的なデータとして表れにくい「温かさ」をどうとらえるかが課題だ。「他者の声にじっと耳を傾け合うような温かい授業を行う先生は、確かにいます。そして、多くの教師がそんな授業をしたいと思っ



教育の臨床哲学について授業を行う増田講師

職教師は教育において独自の考え方をもちながら学び、深めていくことが理解できた。都内の小学校に3年半足を運び続け、50代前半のベテラン男性教師の授業を題材に考察を深めたこともある。

そして、自身も30代半ばに、公立小学校で講師を務めた。「教壇に立つてみれば、『計画通りに授業を進めなければ』と思ってしまう、子どもの欲求を大切に授業を行うことがいかに難しいことなのか気づかされました」と、増田講師は当時を振り返る。

「子どもの目線を尊重しているか」 自問自答し、立ち止まる必要も

教師には外圧があり、評価され、「学力テストの平均点を上げよう」などと求められる現状がある。そこで教師は、「子どもの目線から授業を組み立てているか」「気づきを待たず、教師が考えたストーリーに沿って、子どもの言葉を拾ってはいないか」など自問自答し、時には立ち止まる必要がある。

理想的なのは、「一分からなさをみんなで考える」ということ。これが増田講師の考える「温かい授業」の本質であるという。「今の社会は、ダメな人を切り捨てる風潮がありますが、学校までそうなつてはいけません」と指摘する。「温かい授業」の利点は学習面ばかりではない。家庭で問題を抱えている子どもがいたとしても、教師と周りの子が受け止めることで、本人も安定を取り戻していく。

「子どもたちの多様な声で探求を深める温かい授業ができるかどうかは、教師の資質によるところが大きいと思われがちです。しかし、温

かさ「を個人の資質に任せず、同僚教師たちで協同的に省察を続ける学校づくりが大切だと考え、研究を進めてきました」と語る。
富山大学に着任して2年が経過したばかり。まだ手つかずの研究が多く、「やらねば。理論を詰めねば」と気負う部分が多い。ゼミは教師を目指す学生がほとんど。哲学ベースの本を読みながら、教室での実践に置き直して学ぶ。教員免許更新講習の授業を担当し、現職教師が児童・生徒を見る視点に「本当によく見つけているな」と感嘆する。自身も教育現場を意識した視点を常に忘れないようにしている。



人間発達科学部 発達教育学科
学校教育コース 講師

増田 美奈

ますだ みな

富山市内の小学校で 校内研修に参加 現職の教師と語り合う

富山市内の小学校で校内研修に参加している。授業のある場面をとらえて教師が語り合い、それに加わるというスタンスである。教師の教え方、発問の仕方に着目するだけでなく、「あの時、子どもはどうだったのか？」と子どもの事実から振り返ることにより、気づきが生まれている。

哲学をベースとした知識を
教育現場に置き直し
授業の在り方を模索

留学生に日本語を指導 個人個人に合った学習方法を

富山大学には28カ国・314人(2016年5月1日現在)の留学生が在籍している。国際交流センターは、留学生に日本語・日本文化を指導し、海外留学を希望する日本人学生を支援、国際交流事業を運営することなどが主な役割だ。小木曾准教授は外国人に日本語を指導してきた実績や自身が英語を学んだ経験から、言語学習において自律学習が重要だと考える。

小木曾准教授は都内の大学を卒業後、日本語教師として日本に来た外国人が第二言語として日本語を習得するための教育に携わった。その後、欧州に渡って1999年から2006年まではアイルランドの大学で日本語を教えて

いた。「日本国外で学ぶ欧米系学習者でも、日本語が主専攻の学生なら、4年間の学習で日本語の常用漢字は、ほぼ理解できるようになり、新聞を読むことが可能レベルになります」と語る。

アイルランドに滞在中はダブリン大学トリニティカレッジの修士、博士課程に進み、言語教育の研究にも打ち込んだ。「日本語を指導するだけでなく、理論を研究し教育現場に反映させたい」と考えたからだ。第二言語における語彙習得・学習やCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)などが主な研究テーマである。

近年はポップカルチャーが 日本語を学ぶきっかけに

2006年から2015年までは、英国の大学で日本語が主専攻の学生を指導してきた。今日までの日本語教師歴は20年以上。アイルランドや英国における日本語学習者の傾向について、「日本経済が良かった頃はビジネスにつながるから『日本語を学びたい』というニーズもありました。近年はアニメやゲームなど日本のポップカルチャーとの出会いをきっかけに、日本語を学び始める学生が増えてきています」。

小木曾准教授自身、英語習得のため、色々な学習方法を取り入れ努力した経験がある。その時、「積み重ねは重要。しかし、近道はない」と感じたそう。外国語の習得は、個人個人に合った方法



国際交流センター主催の交流イベント
スタディーエクスカーショ

があり、本人がそれを見つけれられるように指導に努めている。テーマは「いかに自律学習を育成するか」。そのためには学習者自身が具体的な目標を持つことが大切だと考えている。「日本語は難しい」という先入観を持たないように指導することも心掛けている。

国際交流センター
准教授

小木曾左枝子

おぎそ さえこ

日本語の学び方いろいろ ニーズを捉え指導方法を工夫

日本人の子どもが平仮名、カタカナ、漢字の順で覚えるからといって、外国人が日本語を学ぶ場合も同じ方法がいいとは必ずしも言えない。漢字は字体から受けるイメージや部首の意味などを活用し、覚える際に役立てることもできる。学習者の母国語の特徴やニーズも考慮し、きめ細かい指導に努めている。

言語習得に近道なし
自分に合った方法を見つけ
自律学習が大切



富山大学医学薬学祭実行委員会



私たちは、医学薬学祭の企画・運営を自主的に行っています。活動の内容は多岐にわたり、企画を考えるのももちろん、他キャンパスの学祭委員との交流や、企業を訪れて協力金を戴くなど、特殊な経験ができます。委員会の中でも役割を分担しており、後夜祭、広報、会計、物品関連、パンフレット作成等があります。学祭期間中は忙しく大変ですが、達成感はとても大きいです。一人一人が学祭に大きく関与するため、お客さんが楽しめる学祭にするには、多くのメンバーが必要です。興味がある方は、是非連絡ください!

また今年の学祭は10/21-23です。受験生向け企画も用意していますので、受験生の方も是非来てください。3キャンパス合同の企画としてスタンプラリーをする予定なので是非3キャンパス回って景品をゲットしてください!

富山大学体育会ヨット部



私たち富山大学体育会ヨット部は男子37人女子33人の総勢70人で活動しています。毎週水・土・日、大学の長期休みでは週5日で練習をしています。世界で最も美しい湾クラブに加盟している富山湾で風を受け、大きな帆を操りヨットを走らせています。昨年、この美しい富山湾で日本一楽しいヨットレースと言われている“タモリカップ”が行われ、私たちは運営に参加し多くの人に富山湾の壮さを伝えました。“インカレ本戦出場”を目標に、どれだけ日焼けしようが、どれだけ濡れようが私たちは航海を続けます。部員全員が主役のヨット部! 憧れであり目標の先輩、信じ合える大切な同期、明るく元気をくれる後輩と共に今後も全力で取り組んでいきます。

メールアンケートのお願い

富山大学広報誌「Tom's Press」の今後のより良い誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。本号のアンケートにご協力いただいた方の中から、抽選で5名様に「富山大学バッグ」(非売品)を進呈いたします。そのほか、アンケート回答者全員に記念品をお送りいたします。

【回答項目】

1. 本誌を読んだきっかけ(「〇〇(施設名)に置いてあった」など)
2. 本号で興味を持たれた記事とその理由
3. 表紙デザイン、誌面構成、内容など全体的な感想または印象
4. 関心・興味のある分野、これから取り上げてほしいテーマ、その他ご意見・ご要望
5. (プレゼントをご希望の方)お名前、ご住所

【メール送付先】 catch@adm.u-toyama.ac.jp

回答項目1~5について、メール本文に記載の上、上記宛先までお送りください。

<プレゼント応募締切> 8月20日(土)必着

※ご記入いただいた個人情報は、プレゼントの発送以外には使用いたしません。また、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

※バッグのデザインはお選びいただけませんので何卒ご了承ください。

富山大学
バッグ
抽選で5名様



富山大学公式SNS

新着情報やニュースを発信しています。

facebook

<https://www.facebook.com/univ.toyama>

twitter

https://twitter.com/univ_toyama

Google+

<https://plus.google.com/111877087485633174689/>

富山大学チャンネル YouTube

<https://www.youtube.com/tomidaimovie>

夏休みの発掘調査で 精神的にも成長



勤務先: 長野県茅野市役所
卒業年月: 平成24年3月 人文学部 人文学科 卒業

しおざわ きょうすけ
塩澤 恭輔 さん

私は富山大学人文学部人文学科考古学専攻を卒業し、現在は生まれ育った長野県茅野市の市職員として働いています。私の仕事は遺跡や文化財、天然記念物を保護・調整する、文化財保護に関する業務です。主には遺跡を保護するため、開発業者との調整や、時には発掘調査を行い現場で調査の指揮を執ります。大学で考古学を専攻していましたが、私の場合は市役所の採用試験に合格して配属された部署がたまたま文化財保護の部署で、まさかその道に就職できると思ってもいませんでした。そのため、配属当初から専門性の高さについていくことが難しく、とても苦労しました。

一番印象に残っている大学時代の思い出は夏休みの発掘調査・測量調査です。大学時代に行っていた学術調査は、今自分が行っている緊急発掘調査とは異なる点が多いものの、今でも私の調査の基礎になっており、1ヶ月以上にわたる調査経験とその成果をまとめた報告書は、今の仕事に繋がる貴重なものです。ここでの経験が、技術だけでなく精神的にも成長させてくれ、辛い経験を共にした仲間との絆も強まりました。

社会に出れば何が役に立つかはわかりません。一生懸命やったことは後々、自分を助けてくれます。私はもともと熱心に研究しておけば良かったと感じることが何度もありました。皆さんはそんな後悔をしないように大学生活を全力で取り組んでほしいと思います。

HELLO

●各界で活躍する先輩からのメッセージ

ハロー先輩

多様な角度から考え 新しい価値を創る

私は富山大学理学部地球科学科を卒業し、平成27年度より千葉県にある民間気象会社「ウェザーニューズ」に勤務しています。現在私は、海に関わる方々に対して気象情報を提供する、海上気象チームに所属しています。主な業務内容は、気象状況を噛み砕き、お客様に対し業務推薦を行うことです。例えば、海沿いに立地する発電所の燃料となる、天然ガスや石炭を外国から船で輸入する際、気象的に発電所へ入船できるかどうか、入船可否の推薦をしています。最初は覚えることが多く苦労しましたが、最近はお客から褒めの言葉を頂くこともあり、非常にやりがいを感じています。

在学生の皆さんへ、一つお伝えしたいことがあります。それは、様々な方と関わり広い視野を持つことは、将来必ず役に立つということです。私の働く気象業界では、潜在的なニーズが多くあります。それを顕在化させ、お客様のお役に立つためには、様々な視点からモノを見る必要があります。私は社会人2年目ですが、気象的な知識だけでなく、海のルールや経済学など多様な角度から考え、従来にはない新しい価値を創ることが求められています。皆さんが充実した大学時代を過ごし、未来へ羽ばたいてくれることを願っています。



勤務先: 株式会社ウェザーニューズ
卒業年月: 平成26年3月 理学部 地球科学科 卒業

みずの りょうた
水野 翔太 さん

「造形展 2016」にむけて （「造形芸術演習2」）

芸術文化学部造形芸術コースでは、平成17年の芸術文化学部開設当初より毎年、3年生の学生有志が「造形展」と称した展覧会を開催してきました。今年度から、その「造形展」を一層充実したものとするために、展覧会開催について具体的に学べる授業として「造形芸術演習2」（3年次開講、造形芸術コース必修科目）を開講しています。

作品制作はもとより、展示のノウハウ、発表に対する心構えや、情報発信についてなど、運営側にしか見えない種々のことを含め、学生は、授業や展覧会準備の中で様々なことを学んでいます。

「造形展2016」は高岡市美術館市民ギャラリーで7月31日より開催します。意気溢れる学生たちによる展覧会を是非ご覧いただければ幸いです。

（芸術文化学部/講師 平田昌輝）

TOM'S GALLERY

造形展 2016

会期：2016年

7月31日(日)～8月7日(日)

時間：9:30～17:00

※最終日は16:00まで

会場：高岡市美術館市民ギャラリー

（富山県高岡市中川1丁目1番30号）

主催：富山大学芸術文化学部造形芸術コース

共催：高岡市、高岡市教育委員会

展覧会特設webサイト <http://zoukeiten.net/>



01 情報発信の打ち合わせ

話し合いを重ね、案内状やプレスリリースを検討する。教員の指導を受けながら、記載内容やレイアウト、発信先を決めていく。

02 作家による講演

画家、イラストレーターとして活躍する卒業生のはっとりさちえ氏を迎え、具体的な体験を交えて作家活動や作品発表のことを聞いた。自らの制作や将来について見直す機会となった。

03 制作風景(絵画室)

大作の制作にむけ、画面とじっくりと対峙して作品の実物大下図を描いていく。(撮影5月)

04 制作風景(木彫室)

全身を使って木彫の粗彫りを行う。全体の構成に細やかに気を配りつつ、勇気をもって槌を振る。(撮影5月)

富山大学広報誌 トムズプレス

発行日：平成28年7月13日

発行：国立大学法人 富山大学

編集：トムズプレス専門部会

- 安永 数明 大学院理工学研究部(理学)教授
- 池田 真治 人文学部 准教授
- 南部 寿則 大学院医学薬学研究部(薬学)准教授
- 渡邊 雅志 芸術文化学部 准教授
- 早川 芳弘 和漢医薬学総合研究所 准教授

問合せ先：富山大学総務部広報課

〒930-8555 富山市五福3190

TEL076-445-6028

FAX076-445-6063

E-mail kouhou@u-toyama.ac.jp

<http://www.u-toyama.ac.jp/>

Tom's Press はインターネットでもご覧いただけます。

本誌は、富山大学構内などで無料配布しています。郵送を希望される方は、住所・氏名・年齢・性別・職業を明記の上、メール又ははがきでお申し込みください。

本誌は、年4回、3ヶ月毎に発行します。ご意見、ご要望を是非お聞かせください。

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。環境に配慮した紙と植物油インクを使用しています。



無断転載はご遠慮ください。

印刷・製本 株式会社チューエツ

ISSN 1880-6678

Cover Story

“薬学部附属薬用植物園 温室”薬学部

富山大学杉谷キャンパス薬学部の附属薬用植物園には、2000種類以上もの薬用植物があり、研究や実験に用いられています。

この植物園内にある温室では、世界各地の植物が栽培されています。中にはおよそ30年前にパラグアイで調査・研究を行った際に採取された貴重な植物が現在でも栽培されています。

遠い国から運ばれてきた植物が30年経った今でもこの植物園内に生き、薬学を学び研究する学生や教員とともに過ごしてきた時間に、人を癒す薬学への情熱を感じます。

表紙担当／松野奈々 大宮日奈

撮影／八尋新悠（すべて芸術文化学部生）

表紙監修／芸術文化学部 准教授 渡邊雅志

